

平成 2 9 年度

県立広島大学に関する主な報道記事

平成29年度 県立広島大学に関する主な報道記事

○ 教育活動・学修成果に関する記事

No.	題 名	掲載紙等	掲載日
1	作木の植物 入浴剤に 施設整備控え県立広島大生開発へ 地域の素材で町活性化 作木の施設で使用予定 入浴剤 出来栄えは 県立広島大生が原料実験 エキス9種 香る入浴剤	中国新聞 " "	6月1日 8月17日 3月13日
2	大学と球団連携効果 学生⇒試合会場 経営の実践学ぶ プロ側⇒若者集客へアイデア採用	中国新聞	6月5日
3	「オバマさん広島再訪を」 県立広島大がプロジェクト 折り鶴や本人への手紙募る オバマ氏再訪 知事に訴え 学生が紡ぐ 平和の願い オバマ氏再訪実現へ全力 県立広島大生、活動状況を報告	中国、産経新聞 中国新聞他4誌 中国、産経新聞	6月17日 6月20日 2月27日
4	家で作って比婆牛料理 口和活性化会議 県立広島大と6品開発 商品化へ保存法も研究	中国新聞	12月14日
5	外国語も交え児童学習支援 基町地区で県立広島大生 宿題手伝いや読み聞かせ	"	12月25日
6	カルビー、広島にラボ ヒット商品開発めざす 新発想に大学生も協力	ビジネス朝日	1月18日
7	広島発MBA初の巣立ち 県立広島大大学院	中国新聞	3月31日

○ 研究成果に関する記事

No.	題 名	掲載紙等	掲載日
8	クエン酸の働きを検証(レモン健康科学プロジェクト研究センター)	中国新聞	4月23日
9	育て「IoT人材」中小企業を支援 広島県 製造業向け講座 (高度人口知能プロジェクト研究センター)	中国新聞	5月24日
10	産学間連携の成功例を紹介 庄原の県立広島大	中国新聞	7月8日
11	尿漏れ防止パンツ 優秀賞 福祉機器コンテスト 鳥取、広島の産学医連携	読売新聞	10月3日

○ 地域貢献・地域連携に関する記事

No.	題 名	掲載紙等	掲載日
12	若いエール鉄人後押し トライアスロンさぎしま 三原の生徒・学生らが協力	中国新聞	8月21日
13	里山鉄人レース運営充実 庄原 県立広島大生と住民タッグ「参加地域・世代拡大を」	"	10月8日
14	燃える初陣コイが支援 車いすソフト東広島「サリーレ」結成1年 試合用ユニホーム提供	"	12月5日
15	学生と担う地域防災 安佐北区で報告 体験冊子や茶話会「人のつながり重要」	"	12月20日

○ その他の記事

No.	題 名	掲載紙等	掲載日
16	県立広島大学人材育成で意見交換	NHK NEWS WEB	4月23日
17	暴行やアカハラ 教授停職6ヵ月	中国、読売新聞	9月16日
18	免許必要単位誤説明 養護教諭2種取れず	"	1月27日
19	カナエンサイ夢 中国新聞クラウドファンディング 県立広島大学レモンのレシピで県民の健康づくりを応援したい	中国新聞	2月23日

作木の植物 入浴剤に

6/1
中国

施設整備控え県立広島大生開発へ

庄原市の県立広島大庄原キャンパスの学生が、三次市作木町の江の川カヌー公園さくぎに入浴施設が整備されるのに合わせ、地域の植物を使った入浴剤の開発に乗り出した。本年度中に商品化のめどを付ける。
(佐々木裕介)

ふれあい公園でクマザサを手取る県立広島大の学生



地域の素材で町活性化

市と同大が結んだ包括的連携・協力協定の一環。同大生命環境学部の荻田信一郎教授(48)のゼミ生で、植物細胞工学を専攻する3年生たち6人が担当する。

今月19日に現地で打ち合わせがあり、6人は市職員からヒノキの皮や葉、クマザサ、スギは年中入手でき、ウメやユズ、赤シソは収穫時期になると手に入るとの説明を受けた。また、町内のふれあい公園に茂るクマザサも視察。葉をちぎったり香りを確かめたりしてイメージを膨らませた。

3年清水七緒さん(20)は「地域の植物を生かし、人がたくさん来てもらえるような商品を作って活性化につなげたい」と意気込んでいた。

荻田教授は「素材の成分を調べたり、加工、保存方法を検討し、オープンに合わせて使えるようにしたい」と話している。

3/17
中国(県報)

作木の施設で使用予定 入浴剤出来栄えは

県立広島大生が原料実験

三次市作木町の江の川カヌー公園さくぎ内に来年4月に開業を予定する入浴施設で使う入浴剤の開発に取り組む県立広島大生命環境学部(庄原市)の学生が、同公園で原料の選定実験をした。

植物細胞工学を専攻する荻田真二郎教授(48)のゼミ生8人が、作木町などで摘み、乾燥させ焙煎した9種類の野草を42度前後のお湯に浸し、それぞれのエキスを抽出した液を



足湯に入浴剤の「テスト品」の効能を確かめる学生

三次市作木町の江の川カヌー公園さくぎ内
作った。色や香りを確かめ、入浴剤の原料候

補にヒノキ、クマザサ、ヨモギ、青シソの4種類を選んだ。

4種類をガーゼで包み、入浴剤の「テスト品」を作成。足湯に入れ、効能を体感し

た。4年の永山秀佳さん(21)は「体はポカポカしたけど香りが弱い。疲れを癒やせるように、種類や配合を見直したい」と話していた。入浴剤は3月までに完成させる予定。
(八百村耕平)

3/17 中国 エキス9種 香る入浴剤

三次市作木町の江の川カヌー公園さくぎ内に今春開館する入浴施設で使う入浴剤の開発に取り組む県立広島大生命環境学部(庄原市)が、同公園で研究成果の中間報告をした。



参加者に入浴剤の原料となるエキスを紹介する荻田教授(右端)

今春開館 作木の施設 県立広島大が中間報告

荻田真二郎教授(49)が、入浴剤の原料の候補としたヒノキ、ユス、クマザサなどから抽出した9種類のエキスを用意。「色よりも香りを強調できる原料を選んだ。開館後に順次試していく、利用客の反応やコストを考えながら決めていきたい」と話した。

報告会には、入浴施設を運営予定のNPO法人元氣むらさぎの職員や地元住民たち14人が参加し、それぞれのエキスの匂いをかいだ。同法人の岡本和彦常務理事(65)は「ヒノキが多くの人に受け入れられそう。効能も分かるようであれば、アピールしたい」と話していた。

(八百村耕平)

サンフレッチェ広島のパフォーマンスを練る県立広島大の
和田教授(左から4人目)とゼミ生



大学と球団 連携効果

中国地方

中国地方の大学が、地元のプロスポーツチームとの連携を加速させている。地域密着型で、数千から数万人規模の観客が訪れるホームゲームを軸に企画運営する球団経営は、学生がビジネスの現場を学べる格好の舞台。プロ側は若者のニーズやアイデアを取り込み、新たな集客を期待する。栄養学などの専門的な知識を生かし、チーム力を高めたいとの思惑もある。

(新谷枝里子)

学生 ▶ 試合会場 経営の実践学ぶ

サッカーJ1サンフレッチェ広島の本拠地、エディオンスタジアム広島(広島市安佐南区)で4日にあった鹿島戦。ハーフタイムに紫色のゴム風船を飛ばす演出、試合前のポスターイベントサービスなどにつながるアイデアを提供したのは、県立広島大(南区)経営情報学部の和田崇教授(地域マネジメント)のゼミに在籍する3年生と大学院生の計7人だ。

ゼミと球団は2015年度から連携。この4月には女性向けのイベント企画を手伝ってほしいと球団から依頼があった。

学生は、女性にスタジアムに足を運んでもらうPRの手段として、同世代で流行している写真を共有する会員制交流サイト「インスタグラム」に着目。「写真映える場面がほしい」と球団に求める中で企画が生まれた。プロ野球の広島東洋カープを参考に「二休感のある応援スタイルを若者に発信してもらい、新たなファンを取り込もう」と考えた。

「腹に落ちる体験」

和田教授は「生きたマネジメントに触れられる。頭で理解するだけでなく、腹に落ちる体験ができる」とプロスポーツと連携する理由を説明する。ゼミに入るまでサンフレの観戦経験がなかった竹内鈴佳さん(20)「南区」も「自分のような人がどうすれば足を運ぶか考えた。地元を盛り上げられればうれしい」と笑顔を見せた。

サンフレは安田女子大(安佐南区)とも連携し、造形デザイン学科の学生に試合の映像撮影を任せる。サンフレ企画広報部の久保雅義部長(45)は「地元大学との連携は地域貢献に

プロ側 ▶ 若者集客へ アイデア採用

なり、若者の意見を知る機会にもなる。今後も強化したい」と話す。

ほかにも、広島女学院大(東区)の学生は、プロバスケットボール男子Bリーグ2部の広島ドラゴンフライズ(中区)とのコラボグッズを作り、4月に試合会場で販売。鳥取県境大(鳥取市)は、J3ガイナーレ鳥取の試合運営を体験する集中講義を開いている。

選手の食事に助言

経営や商品開発に限らず、専門的知見を生かして競技力の向上に役立てる例もある。山口県立大(山口市)はJ2レノファ山口と昨年10月に連携協定を結んだ。看護栄養学の教員と学生が、18歳以下の選手の栄養状態を調べたり、バランスの良い食事メニューを助言したりする。レノファは「成長期の選手たちの体づくりをサポートしてもらい、レベルアップにつながる」と期待する。

大学とプロの連携は双方に利点があり、取り組みはさらに広がるとみられる。両者の連携に詳しい産業能率大(神奈川県伊勢原市)の小柴達美副学長(管理工学)は「大学側が、連携をどう教育に生かすのかがビジョンをきちんと持つことが重要だ」と強調する。

同大は04年にJ2湘南のユニホームスポンサーになった。関連するNPO法人とともにスポーツ教室を毎月開き、スポーツマネジメントを学ぶ学生の実践の場としている。小柴副学長は「学生がプロ球団に就職するなど具体的な結び付きに限らず、地元密着のスポーツ経営に関わることで地域への愛情が育まれ、就職や定住などで地域に還元できる効果もある」とみている。

「オバマさん広島再訪を」

県立広島大がプロジェクト

県立広島大（広島市南区）は16日、昨年5月に広島を訪れたオバマ前米大統領に再訪を促す活動に取り組むと発表した。広島県内の小中高の児童、生徒や大学生から手紙を募り、同大の学生が渡米して本人に届ける計画。「核兵器を巡る情勢が不安定な今、被爆地の若者が動くことに意義がある」としている。

題して「オバマ・プロジェクト」。同大の学生がメンバーとなり、手紙の英訳などを担う。メッセージとともに、999羽の折り鶴も募る。オバマ氏の再訪がなかった際に残りの1羽を

折り鶴や本人への手紙募る

折ってもらい、千羽鶴を完成させるという。ミシエル夫人も招待する。同大の福岡政行客員教授（政治学）が発案。広島、三原、庄原の3キャンパスでメンバーを募ったところ、現時点で23人が関心を寄せているという。さらに増える見通しで、今秋の招待を目指す。

中心メンバーで被爆4世の間文化学部3年原大將さん（20）は「中区IIは「オバマさんは世界的な影響力が大きい。平和な世界の実現のため、広島若者と話してできることをしたい」と話す。メンバーは19日、湯崎英彦知事を訪問し、活動開始を告げる。（長久兼佑）

県立大、手紙届けるプロジェクト

県立広島大（広島市南区）は16日、オバマ前米大統領に再び広島を訪れてもらおうとする取り組み「オバマ・プロジェクト」を始めた。県内の小中高大生から再訪を呼び掛ける手紙を集め、直接オバマ氏に届ける。

県立広島大の福岡政行客員教授が企画。学生が手紙を英訳し、折り鶴999羽も募集する。最後の1羽をオバマ氏の再訪が実現した際に広島で折ってもらい、千羽鶴を完成させる計画だ。

オバマ氏は昨年5月27日、現職の米大統領として初めて広島市を訪問。平和記念公園で演説を行い、被爆者とも面会したが、約50分という滞在時間の短さには疑問の声も上がっていた。

オバマ氏の広島再訪を



6/20 毎日

学生「オバマ氏再訪を」

県立広島大 知事に招致企画説明

県立広島大（南区）の学生が、昨年5月に広島を訪れたオバマ前大統領を再度広島に招致する「オバマ・プロジェクト」に取り組む。19日、学生らが県庁を訪れ、湯崎英彦知事に概要を説明した。

プロジェクトでは、県内の小中高校に協力を依頼してオバマ氏に

湯崎英彦知事（右）を訪問した県立広島大生の原大將さん（中央）と同大の福岡政行客員教授

県庁で

だ。

同大人間文化学部3年の原大將さん（20）は「オバマさんと呼んで世界に平和を訴えたい。たくさんの方に協力をお願いしたい」と話していた。湯崎知事は「いろいろなことにチャレンジすることが大事だ。ぜひ声を届けてほしい」と激励した。

【竹内麻子】



オバマ氏広島再訪プロジェクト 県立大メンバー 知事にPR

オバマ前米大統領に広島再訪を呼びかける「オバマ・プロジェクト」を進める県立広島大（広島市南区）のメンバーが19日、県庁の湯崎英彦知事を訪れ、プロジェクトをPRした。写真に広島再訪の声を届けて

もたれは」と期待を寄せた。原さんは「いろんな世界情勢がある中、一丸となって平和に取り組むことが大切だ」と訴えた。プロジェクトは、折り鶴999羽を作成して最後の1羽をオバマ氏に広島で折ってもらい、完成させる。▽広島県の学生がオバマ氏に再訪を呼びかけるレター作成▽現地を訪問して直接、再

学生が紡ぐ平和の願い

オバマ氏再訪 知事に訴え

県立広島大プロジェクト報告



昨年5月に広島を訪れたオバマ米大統領（当時）に再訪を促す「オバマ・プロジェクト」を始めた県立広島大（広島市南区）の学生たちが19日、県庁に湯崎英彦知事を訪ね、今後の活動方針を報告。湯崎知事と握手する原さん（左）と福岡氏（右）。

中心メンバーの人間文化学部3年原大將さん（20）と同大の福岡政行客員教授（政治学）が訪問。県内の小中高生や大学生から再訪を呼び掛ける手紙を募り、本人に直接届けることや、折り鶴999羽を用意し、オバマ氏に1羽を折ってもらって千羽鶴にするプランなどを説明した。原さんは「実現に向けて協力をお願いします」と依頼。湯崎知事は「1羽残すのは良いアイデア」などと激励した。メンバーは現在、同大の南区、三原市、庄原市の3キャンパスで計23人。今後、他大学の学生にも協力を呼び掛けていく方針。（明知集二）

「オバマ氏、もう一度広島へ」

昨年5月に現職の米国大統領として初めて被爆地・広島を訪れたオバマ氏に再訪してもらおうと、県立広島大学（広島市）の学生有志らが「オバマ・プロジェクト」を立ち上げ、19日に湯崎英彦知事に概要を説明した。学生らは、県内の小中学生から大学生まで呼びかけてオバマ氏への手紙を書いても、英訳

県立大生らがプロジェクト

して手渡すことや、999羽の折り鶴を作り、オバマ氏に再訪したら最後の1羽を折ってもらうって千羽鶴にすることを考えている。8月に米国でオバマ氏と面会するのが当面の目標で、それまでに手紙や折り鶴を完成させたいという。（地）

訪を要請する一などを計画している。

大学生らオバマ氏招致活動

県立大生中心 手紙集め 直接要請へ

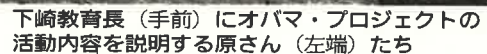
オバマ前米大統領に再び広島に来てもらい、平和のメッセージを発信しようとして、県立広島大の学生らが招致に向けた「オバマ・プロジェクト」を始める。メンバーが19日、県庁を訪れ、湯崎知事に取り組みを報告した。政治学者で同大の福岡

知事は「1羽を残すのはいいアイデア。きつと声は届くと思う」と励ました。福岡客員教授は「学生の発想は豊か。県内のいろいろな大学の学生にも手伝わってもらえばいい」と期待を込めた。

2018
2/27
中国

オバマ氏の再訪が実現した時に残る一羽を折ってもらって千羽鶴を完成させる。県内の小中学校に折り鶴とおバマ氏への手紙を募集し、折り鶴214羽と手紙197通が集まったことなどを説明した。

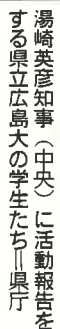
メンバーは現在、在大阪・神戸米総領事館やおバマ財団の関係者と交流し、フェイスブックで活動を発



動だからこそ伝わる思いもあると思う。世界に向けた活動に発展させたい」といって、下崎教育長は「活動が広がるように頑張る」と激励した。

(瀧尾明日香)

國際文庫



2018
~~2~~
27
產經

この日、国際文化学科3年の
原大将さん(20)ら8人が訪問。
きみみなで頑張つて」と激励し
これまで県内の小中高817校
ていた。

県立大生、知事に成果報告

家で作って比婆牛料理

口和活性化会議 県立広島大と6品開発

庄原市口和町の自治振興区や商工団体などをつくる口和活性化会議は、県立広島大と共同で、同市のブランド和牛「比婆牛」と、市内産の食材を使った新料理6品を開発した。レシピを無料公開するとともに、保存の利く商品販売に向けた研究も進める。

(伊東雅之)

商品化へ保存法も研究

同町も産地となつて「わつてもらおつと、会
いる比婆牛を身近に味」議が依頼した同大生命
環境学部の吉野智之准
教授(49)「食品工学」
と研究室の大学院生2
人がレシピを作った。

料理は、アスパラを
ひき肉で巻いて焼いた
塩こしょう味などの
「アスパラ棒」▽トマ
トなどで作ったソース
と大葉、ひき肉を具に
した「トマト煮餃子」
▽時雨煮にした肉を総
領こんにゃくで包んだ
る。

「比婆牛こんにゃく」
▽広島県産やゴボウ、シ
イタケ、肉などを具に
した「炊き込みご飯」
▽豆腐や肉を具にした
ワンタンとネギやシイ

タケを入れた「ワンタ
ンスープ」▽塩こしょ
うで炒めた肉と広島菜
をご飯、のりで巻いた
「比婆牛と広島菜漬巻
き」。比婆牛と、市
内の特産が素材に入る
よう工夫している。

トマト煮餃子、比婆
牛こんにゃく、炊き込
みご飯などは今秋、市
内イベントで販売。用
意した40、80食はいず
れも完売する人気だ
った。会議は「希望者
にレシピを無料提供し
たい。飲食店はもちろ
ん、家庭の一品にも加
えてもらえれば」とす
る。

吉野研究室は、総菜
商品などとしての可能
性も探るため、保存方
法の研究を進める。会
議事務局 ☎0824
(87) 2113。



比婆牛と庄原市内の食材で作った新料理を
囲む吉野准教授(右端)や関係者

ボランティアの大学生とビンゴゲームを楽しむ児童たち



外国語も交え 児童学習支援

基町地区で県立広島大生

外国人や中国残留邦人の家族が多く暮らす広島市中区の基町地区で、県立広島大(南区)の学生ボランティアが小学生の学習を支援している。地元の商店街の一角を拠点に、外国語を交えながら学習をサポート。児童が放課後を過ごす居場所としても好評だ。

(梁曉雨)

宿題手伝いや読み聞かせ

拠点とするのは、市営基町ショッピングセンターの空き店舗にある図書室「ほのぼの文庫基町」。19日は基町小の児童10人が集まった。放課後の約1時間半、3人の学生ボランティアが宿題を教えたり、パズルを使って図形を解説したりした。

クリスマス前だったため、ビンゴゲームやクリスマスソングの合唱も用意した。中国から来日して4年半になる5年張研航君(11)は「ここでは勉強がはかどる。にぎやかで楽しい」と喜んだ。

支援活動は、多文化共生や国際交流に関心のある学生有志が7月下旬に始めた。メンバーは、中国語専攻や教職を目指す25人。五つのグループに分かれ、火、木、土曜に児童の宿題の手伝いや遊び相手をしている。

図書室には中国語や

韓国語を含む約500冊の本が並び、希望に応じて読み聞かせもする。人間文化学部3年の中馬風香さん(21)は「外国にルーツを持つ子は今後さらに増える。学生にとっても、多文化共生や地域貢献を学ぶ貴重な場になっている」と語る。

図書室を運営する基町地区社会福祉協議会の徳弘親利会長(76)は「共働きの家庭も多い。気軽に集える居場所があると、保護者や地域も安心できる」と歓迎している。

国際交流

Hiroshima
Economy
News

オフィスを紹介する山辺昌太郎さん＝広島市南区、いずれも久保田侑暉撮影

カルビー、広島にラボ ヒット商品開発めざす 新発想に大学生も協力

「2019年までにヒット商品を三つ生み出す」と。食品大手のカルビーが、創業の地・広島で新たな目標に挑んでいる。メンバーはわずか6人。大学生や他企業などを巻き込みながら、新たな視点で新商品の開発をめざす。

JR広島駅前の高層ビル（広島市南区）に、新商品開発に挑む「カルビーフューチャーラボ（CFL）」のオフィスがある。白い木目のドアを開けると、社員はニットにジーンズなどラフな格

好で仕事をしていた。足には靴ではなく、スリッパ。オフィスに壁などの仕切りは一切なく、掘りごたつ式の和室のようなスペースまである。

メンバーを率いるクリエイティブ・ディレクターの山辺昌太郎さん（47）が「このオフィスも自分たちで考えたんです」と案内してくれた。アイデアをすぐ試せるよう、キッチンも設けられている。カルビーは1949年、松尾糧食工業として広島で設立。55年、カルシウムの「カル」とビタミンB1の「ビー」を組み合わせた「カルビー製菓」に社名を変更した。「かっぱえびせん」（64年）、「サッポロポテト」（72年）

とヒット商品を発売。73年に本社を東京へ移してから「ポテトチップス」（75年）、「じゃがりこ」（95年）など数多くの人気商品を生み出した。カルビーの業績は好調で、2013年3月期に1794億円だった売上高は、17年同期には2524億円に。純利益も94億円から186億円に増え、ともに過去最高を更新している。だが、山辺さんは「10年間ヒット商品を生み出せていないです」と課題を挙げる。「好調な業績は既存商品に支えられている。商品の将来を考えたら非常に不安がありますよね」

新しい発想で商品を作ろう。ヒット商品を生み出すため、昨年4月に新組織のCFLが発足した。場所は創業の地広島。カルビー本社のある東京・丸の内からも、研究開発本部のある栃木・宇都宮からも離れた地だ。同じビルの同じフロアにある中四国支店とも行動を別にする。

学生とも連携し、商品開発に臨んでいる「カルビーフューチャーラボ」提供



↓ 健康科学科

オフィスにはメモを書き込める場所が数多くある

アイデアをすぐ試せるようキッチンも

現在、CFLで働くメンバーは6人。そのうち山辺さんを含めて4人が社外出身者だ。CFLが掲げる理念は「圧倒的な顧客志向」。学生、主婦、会社員を問わず、10〜70代の幅広い年齢層にインタビュを実施している。聞くのは、一人一人の1週間の生活。何時に起き、何を食べ、休日は何をしているのか。本人すら気づいていないニーズを掘り起こそうと、インタビュは1時間以上にと及ぶことも。17年11月現在で、その総数は1241人に上る。そこから新商品のアイデアを探っている。

そして、インタビュの担い手も社員ではなく、社外の力を借りている。CFLの研究生として動くのが地元広島の大学生たちだ。県立広島大1年の向井円香さん（19）は「何かに挑戦したい」と研究生に加わった。これまで約20人にインタビュ。「人と話すのが苦手なのでいまだに緊張するけど、今は色んな人の考えを聞けるのが楽しみです」と話す。将来は管理栄養士になりたいというコミュニケーション能力を高めるためにも、この活動を役立てている。

「6人しかいないから助けてもらうしかないんです」と山辺さんは言う。だが、力を借りることだけが目的ではない。「カープのようにみんなで育て、みんなが愛着を持つような商品を広島から作りたい」（久保田侑暉）

和室をイメージしたくつろぎのスペースもある

広島発MBA初の巣立ち 県立広島大大学院

3/14

中国地方5県で唯一の広島大大学院経営管理一、経営学修士(MB)研究科の1期生27人(A)を取得できる県立が、広島市南区の同大



角帽を投げ上げて喜ぶ修了生たち

広島キャンパスで学位記を受け取った。30、60代の修了生は、研究成果を社会で役立てると誓いを新たにしていた。研究科は、先進的なビジネスモデルを築いて地域産業を支える人材を育てようと、2016年4月に発足した。履修の柱に①農業

経営②中小企業経営③医療・介護経営④ベンチャービジネスの4分野を据える。(教蓮孝匡)

きながら高い志で学んだ皆さんの力で、広島や日本をより良くしてほしい」と激励した。安佐南区の製薬会社員柴田大輔さん(36)は、高齢化が進む中で製薬会社の新たな役割を研究した。「教官や同期生の視点に刺激

を受けながら学べた。今後の仕事で実践し、社会に還元したい」と意気込んだ。

研究科は、先進的なビジネスモデルを築いて地域産業を支える人材を育てようと、2016年4月に発足した。履修の柱に①農業経営②中小企業経営③医療・介護経営④ベンチャービジネスの4分野を据える。(教蓮孝匡)

読む・知る・学ぶ

Newspaper In Education

4/23 中国

クエン酸の働きを検証

大学力

国内のレモン収穫量の約6割を占める広島県。レモンの価値を高めようと、県立広島大レモン健康科学プロジェクト研究センター長で、同大保健福祉学部の飯田忠行教授(44)は健康効果を研究している。昨年、骨粗しょう症の予防が期待できるとの結果をまとめた。

県立広島大

レモン健康科学プロジェクト研究センター

飲料を半年間毎日飲んでもらい、腕の骨密度を測った。閉経後の女性は骨密度が低下傾向にあり、骨粗しょう症のリスクが高まるとされる。実験では、骨密度が摂取前と比べて3カ月後に1・3%、6カ月後に1・1%増えていた。

飯田教授は「レモンに多く含まれるクエン酸のキレート作用のおかげ。一緒に取ることでカルシウムの吸収が促された」と説く。血液中のカルシウムが不足すると、補うために骨からカルシウムが溶け出してしまふ。飲料はその動きを抑え、骨密度の維持、上昇につながったとみる。

「骨粗しょう症は予防が肝心。日本人はカルシウム不足になりがち。若い時から意識して摂取してほしい」と飯田教授。牛乳150ミリに、レモン果汁大さじ2杯、はちみつ大さじ1杯を入れた飲料を薦める。カルシウム入りの豆乳でも代用できる。



レモンが持つ骨への健康効果について説明する飯田教授

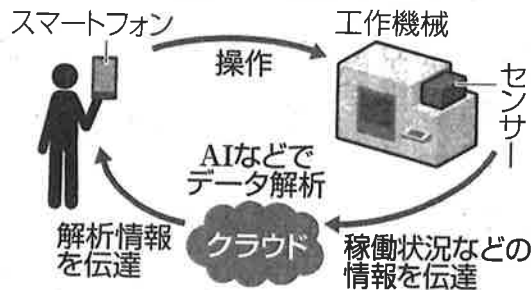
同大は2008年から県産レモンのPRにつなげようと、健康効果の研究を進める。血圧を下げる結果も出ているという。今後はアンチエイジング(老化防止)効果を検証する。

(山本庸平)

育て「IoT人材」 中小企業を支援

広島県 製造業向け講座

製造業でのIoT活用イメージ



と、大企業などでIoT活用が進む中、中小企業には「関心はあるが、方法がよく分からない」との声が根強いという。具体的な活用方法として、県はスマホを通じた工作機械の操作や生産ラインの管理などを想定している。

連続講座に先立ち、IoTの概要に関するセミナーを開く。県立広島大高度人工知能プロジェクト研究センター(南区)などが講師を派遣する。6月の講座は14、21、28日、成果発表会は8月1日に開く。セミナーは5月30日と6月8日で定員各100人。いずれもメールかファクスで申し込み、応募多数の場合は抽選。10月以降の日程は今後決める。同大学校☎082(273)2201。(樋口浩二)

広島県は、さまざまな機器をインターネットでつなぐ「モノのインターネット(IoT)」を活用して効率化を図る中小企業の人材育成を支援する。講座やセミナーを開き、人手不足に悩む製造業を中心に、本年度、担当者40人の技術習得を目指す。

連続講座(全3回)を6月

と10月以降の2度にわたり、県立技術短期大学校(広島市西区)で開く。いずれも県内企業から定員20人で募り、実習を通じ、機器に取り付けるセンサーからスマートフォンへの情報伝達の仕組みを学んでもらう。修了後、自社でのIoT活用に関する成果発表会も開く。県職業能力開発課による

産学官の連携による害獣撃退装置の開発について話す三苫教授



産学官連携の成功例を紹介

庄原の県立広島大

庄原市七塚町の県立広島大庄原キャンパスで7日、「産学官連携事業の成功事例に学ぶ」と題した公開講座があった。行政や企業、商工業団体と研究、開発に取り組んだ同大生命環境学部の三苫好治教授と、保健福祉学部の飯田忠行教授が、成功の秘訣や課題を紹介した。

三苫教授は、同市の

補助金を使った超音波によるイノシシなどの害獣撃退装置の開発について講演。装置を製造、販売する企業の顧客アンケートから課題を見つけ、改良を続けていくことを報告した。

捕獲にもテーマが広がっていると言及。イノシシ肉を食用とするため、チーズ製造工場で廃棄されるホエイ（乳清）を混ぜ、含まれる酵素で肉を軟らかくする研究に触れた。

「地域連携による商品開発で最も重要なのは販路開拓」とも指摘。「研究者も地域の悩み事を聞かせてもらい、売り方や販売先についても考える必要がある」と述べた。

飯田教授は「レモンを活用した健康増進」に関して話した。公開講座には、商工業団体職員たち約20人が参加した。

（伊東雅之）

10/3 発表

尿漏れ防止パンツ 優秀賞

福祉機器
コンテスト 鳥取、広島の産学医連携

鳥取、広島両県の企業と、
広島県立広島大、福祉施設
の産学医連携で誕生した尿
取りパッド固定用の「ふわ
ふわフィットパンツ」＝写
真＝が、日本リハビリテー



ション工学協会の「福祉機
器コンテスト」で優秀賞を
受賞した。従来の使い捨て
紙製品などと比べて圧迫感
が少なく、洗濯して繰り返し
使える。

鳥取市の介護用品開発販
売「ニシウラ」と広島県東
広島市の医療機器製造販売
「コーポレーションパール
スター」、鳥取県米子市の
老人保健施設「ゆづりびあ」

（施設長＝井上貴央・鳥取
大名誉教授）、広島県立広
島大学の井上誠准教授が共
同研究で開発した。

パッドを固定する部分に
特殊な編み地を使うこと
で、皮膚への圧迫を最小限
に抑え、尿漏れに悩む人や
高齢者、障害者らトイレを
使用できない人も快適に使
用できる。

コンテストでは、伸縮性
や通気性に優れる利便性に
加え、洗濯して繰り返し使
える点が環境問題にも貢献
すると評価された。

男女共用で、SS、S、
M、L、LLの3サイズが

**Trend &
Business**

ある。

問い合わせは販売元のニ

シウラ（0858・85・0
601）。

若いエール 鉄人後押し

8/21 朝

男女総合の優勝者を除く
上位入賞者は次の皆さん。

(敬称略)

男子総合 ②谷川延久
(36) 江田島市 2時間23
分35秒 ③田川淳一 (35) 倉
敷市 2時間24分33秒 女子
総合 ②前田乙乃 (20) 名
古屋市中川区 2時間37
分29秒 ③武居修子 (48) 下
松市 2時間50分27秒

三原市の佐木島で20日あった第28回
トライアスロンさぎしま大会は島民に
加え、市内の大学生や中学生が島に入
って、ボランティアとして大会を支え
た。普段は静かな島が熱気を帯びた。

(25面関連)

給水所でスイムを終えた選手に水入
りのコップを渡すのは第五中陸上部の
生徒約30人。3年清政荘太さん(15)は
「将来、一度はレースに参加したい」
と選手の走りを見守った。

第二中の15人は沿道で自転車の選手
にぬれたスポンジを渡した。島から通
学する2年山下葉乃さん(14)は「悔い
のない成績を残してほしい」と話した。

県立広島大保健福祉部の学生約20
人も会場の受け付けを手伝った。1年
石上紗吏さん(19)は「楽しかった。来
年も参加したい」と満足そうだった。

大会実行委員長の平木政則さん(63)
は「島は高齢化や人口減に悩んでいる
が、若い力を借りながら手作りの大会
を続けていきたい」と力を込めた。

(中島大)

トライアスロンさぎしま

三原の生徒・学生ら協力



里山鉄人レース 運営充実 10/8 中国

庄原 県立広島大生と住民タッグ

「参加地域・世代拡大を」



ロケットストーブ作りを進める細井実行委員長（右から3人目）と県立広島大の学生たち

まき割りなど昔ながらの里山暮らしに必要な技能を競うイベント「里山トライアスロン」が11月23日、庄原市板橋町の学びの森である。県立広島大の学生たちが運営していた小規模なイベントだったが、今年からは同大卒業生や地元住民も加わる実行委員会の主催に変わる。イベントのさらなる充実を目指す。

（山本堅太郎）

里山トライアスロンは2012年、県立広島大の学生たちでつくるグループ「さくら浦

ランニング」が始めた。間伐材のまき割り、山道のランニング、ドラム缶を材料にしたロケットストーブでの火おこしの3種目を組み合わせ、タイムを競うイベントだ。

実行委によると、学生は毎年のように入れ替わるため、イベントの継承や運営の改善で難しい点があったという。そこで今春、地元住民や地域おこし協力隊員が加わる形で実行委を設立。イベントに向けて共同で準備を進めている。

同大卒業生で実行委員長の小井澄秋さん（31）＝同市三日市町＝は「地元住民が学生に協力して一緒に運営することで、学生の負担軽減にもなる。幅広い地域、世代に参加してもらえイベントにしたい」と意気込む。

12/5 中国

燃える初陣 コイが支援

車いすソフト

東広島「サリーレ」結成1年

東広島市を拠点に活動する車いすソフトボールチーム「サリーレ」が結成1年を迎えた。資金不足の中、11月下旬に広島東洋カープから赤いユニホームを贈られた。北九州市で来年3月にある大会で、そろいのユニホームを着込み初の試合に挑む。

(鈴木直美)



カーブから贈られたユニホームを着て練習に励むメンバー

北九州で来年3月 **試合用ユニホーム提供**

車いすソフトは1チーム10人で、障害がなくても車いすに乗ってプレーできる。サリーは、車いす利用者、人と理学療法士や義肢装具士を目指す大学生13人の男女計20人だ」と話す。

東広島市の県立障害者リハビリテーションセンターで練習している。チームの悩みは資金難。これまでユニホームを購入できず、試合もできなかった。そ

車いすを素早く動か
れを知ったカーブが
して打球をさばき、「走
れ走れ」「ナイスキャ
ッチ」の掛け声アリ
供。右袖にはチーム名
ーナに絶えず響く。足
の刺しゅうが入ってい
が不自由な川尻中一年
る。理学療法学科

の西河朔也さん(13)＝サリーレの主将で県

呉市には「野球が大好き。車いすで思い切り走られて気持ちいい」と猛スピードで走塁する練習にも力を入れないよう全力で臨む。

代表を務める三原市と勇気づけられている会社員吉田誠さん。

(46)は22歳の時、バイクで転倒して脊髄を損傷した。車いすソフト

被災地

から

学生と担う地域防災

安佐北区で報告 体験冊子や茶話会

「人のつながり重要」^{2/5}



被災体験を記録する活動について発表する広島大の学生

広島土砂災害の復興支援や防災について考えるフォーラムが24日、広島市安佐北区の区総合福祉センターであった。三つの大学生ボランティア団体が、被災者との交流や被災体験の記録などの活動を発表。自主防災会の会員たち約70人と、災害に強い地域づくりへの方策を探った。

(山田英和)

広島大の学生グループが被災体験を伝える冊子「OPERATIO N(オペレーション)」の作りを報告。被災者から発生時の様子や防

えていく」と誓った。

被災者との茶話会を開く県立広島大や広島

文教女子大の学生でつく「にしカフェ」は中田芽久共同代表(21)県立広島大3年11たち4人が登壇。「人と人とのつながりが最初の防災になると感じた」と説いた。

参加者を交えた意見交換もあり、4人ずつの班に分かれて話し合った。「高齢化が進む中、地域の防災組織をいかに運営するかが課題」などの声が上がった。

主催した安佐北区の市民団体「若者活動サポートセンター」あおぞらの秦野英子共同代表(51)は「学生とともに地域の将来像を考えていきたい」と話していた。

県立広島大学人材育成で意見交換

04月23日 12時38分



県立広島大学が設置した専門職大学院で、女性を中心にした人材育成のあり方について意見を交換する会が広島市で開かれました。この意見交換会は中国地方では初めてMBA＝経営学修士が取得できる専門職大学院を設置した県立広島大学が開いたもので、大学院の関係者などおよそ10人が参加

しました。

はじめに広島県の湯崎知事が「農業や中小企業など産業によっては経営の効率化が図れる分野がまだまだあり、そうした分野で活躍する人材を育てる必要がある」と期待を語りました。

この後、意見交換が行われ、「グローバルな人材も地域で活躍する人材も求められるものは同じだ」といった意見や、「女性がさらに活躍できる場がまだ多くある」といった意見が出されていました。

国は女性管理職の育成などを進めていて、意見交換会では女性の入学者をどう増やすのかなどについても課題として掲げていました。

県立広島大学大学院経営管理研究科の横山禎徳研究科長は「日本でも女性の社会参加が増えているが、出産や働きながら子育てをする仕組みが十分できていないことによる損失がまだ大きい。このプログラムに参加し、女性自身が可能性を広げてほしい」と話していました。

暴行やアカハラ 教授停職6ヵ月

県立広島大

県立広島大（本部・広島市南区）は15日、学生に対する暴行や、アカデミックハラスメントに当たる威圧的な発言があったとして、

生命環境学部（庄原市）の50代の男性教授を停職6ヵ月の懲戒処分にした。

同大によると、4月末から6月中旬にかけ、自身の研究室の男子学生1人に対し、実験の失敗を理由に首元をつかんで頭突きをしたほか、複数回にわたり「俺のことなめとんのか」「中学生でもできる」などと言いながら腹を小突いた。

学生は6月中旬から大学

を休んでおり、同時期に保護者から大学に相談があり発覚した。学生にけがはなかったが、体調を崩しストレス性腸炎の疑いと診断された。復学は未定で、学生は研究室を変わることを希望しているという。

同大の聞き取りに対し、

教授は「指導してもミスが重なり激高してしまった」と話しているという。同大によると、教授は過去にも他の学生や事務職員への発言を巡り文書訓告や口頭注意を受けていた。中村健一理事長は「深くおわびする。未然防止できなかったことを真摯に反省し、繰り返すことのないよう全力で取り組む」とのコメントを出した。

保護者

アカハラ教授を停職6ヵ月

県立大学生に頭突きや暴言

県立広島大は15日、学生への暴行とアカデミック・ハラスメント（立場を利用した嫌がらせ）があったとして、生命環境学部の50歳の男性教授を停職6ヵ月の懲戒処分とした。

発表によると男性教授は4～6月、庄原キャンパス（庄原市）の研究室で、実験の失敗を理由に、男子学生の首元をつかんで揺さぶったり、頭突きをしたりして「俺のことなめとんのか」「何考えとるんじゃ、ボケ」などと暴言を吐いた。学生の保護者から大学に相談があり、発覚した。学生は体調を崩し、7月から休学している。大学の調査に対し、教授は「何度も指導したが

ミスが多く、激高してしまっただと認めているという。教授はこれまでも大学職員への暴言で口頭注意（2008年）、学生への暴言で文書訓告（13年）の処分を受けており、中村健一理事長は「誠に遺憾。深くおわびし、二度と繰り返さないよう全力で取り組む」とのコメントを出した。

免許必要単位誤説明
養護教諭2種取れず

1/24 県立広島大

県立広島大は26日、保健福祉学部看護学科で大学の説明ミスのため、養護教諭2種免許の取得に必要な授業を履修せず、免許を取得できなかった卒業生がいたと発表した。単位未取得の該当者は333人。希望者には無料で特別授業を行う。

養護教諭2種免許は保健師免許があれば取得できたが、2010年度以降の卒業生は「体育」などの単位取得の確認が必要になった。しかし大学では学生に「2種免許は保健師免許があれば取得できる」という従来の説明を続けていた。昨年、卒業生2人から免許を取得できなかったと指摘を受けて発覚。在学生には必要な単位を取得できるように対応した。

同学科の学生の大半は、卒業後に看護師として就職し、養護教諭の志望者も1種免許取得のために他大学に進学するといひ、大学は「(2種免許への)意識が低かった」と謝罪している。

誤説明 養護免許取れず

1/24 県立広島大 単位不足 333人に連絡

県立広島大は26日、養護教諭2種免許の取得に関して保健福祉学部看護学科の学生に誤った説明をしていたため、卒業生が単位不足で免許取得できないケースがあったと発表した。卒業生が昨年6月に指摘して発覚。これまでに2件を把握しているという。同大は誤った説明を受けた卒業生が取得を希望する場合、単位付与のための特別授業を実施する。

同大によると、2009年度の卒業生までは国家試験を受けて保健師の免許を得れば、県教委に申請するだけで養護教諭2種免許が取得できた。10年度に申請手続きが変わり、「日本国

憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」の4科目8単位の履修証明を提出しなければならなくなった。ところが同大は、看護学

科では「保健師免許があれば取得できる」と誤った説明を続けていた。同学科はこの4科目の一部が必修ではなく、10、16年度の卒業生のうち333人が現状では申請しても取得できないとみられる。同大は333人全員に特別授業の開催などを知らせる文書を同日付で郵送した。在学生には単位取得を促したため、「影響はない」としている。

この日、県庁で記者会見した小野武也学部長は「深くおわびする」と陳謝。発覚から7カ月後の公表になった点について「影響が見込まれる卒業生の確認や在学生への対応に追われていた」とした。

(胡子洋)

本日サイトOPEN

広島をかなえる、広島人の夢をかなえる

カナエンサイ夢

中国新聞クラウドファンディング

2/27 中国

中国新聞社は、インターネット上で多くの人から支援を集めプロジェクトをかなえるクラウドファンディングサイト「カナエンサイ夢」を開発しました。このサイトは「広島をかなえる、広島人の夢をかなえる」をコンセプトに、広島に関わる人の地域課題、企業の商品開発・マーケティング、文化・芸術・スポーツ振興におけるチャレンジなどが対象。夢を実現したい「プロジェクト起案者」と「応援・支援する人」をつなげます。サイト開設と同時にスタートしたプロジェクトをご紹介します。

カナエンサイ夢

検索



お帰り、すずさん!

「この世界の片隅に」のマンガ原画の寄託を記念してマンガ原画展を開催したい

目標達成型

【目標金額】200万円

「この世界の片隅に」は、漫画家こうの史代により「漫画アクション」(双葉社)に連載されたマンガです。このマンガ原画は、呉市立美術館に寄託され、全国の原画展に貸出しを行ってきましたが、今年、全国巡回を終え当館に帰ってきます。これは広島市内から呉に嫁いだー



人の女性「すず」の姿をとおして二度と繰り返してはならない戦争の悲惨さと毎日を懸命に生きる人々の尊厳を描いている作品です。当館としては、呉を主な舞台とした「この世界の片隅に」の世界は、後世へと受け継いでいくべき呉の歴史でもあり、これを継続的に伝えていく責務があると考えています。今回、マンガ原画の寄託記念として、この史代「この世界の片隅に」マンガ原画展を開催したいと思ひます。

《支援コース(1口)》

【6コース】¥1,000~¥100,000(税込)

《主なリターン》



- 会期中何日でも入館できるイリシ「ル」招待券(すずさんバス)
- 支援者限定「オリジナルチケットホルダー」
- 支援者限定公開日(7月21日(土))「予定」
- 館内で支援者一覧に名前を記載

※各コース詳細およびリターン詳細はサイトでご確認ください。

《支援受付期間》

2月23日(金)~3月31日(土)

《起案者》

公益財団法人 呉市文化振興財団 呉市立美術館
〒737-0026 呉市幸町入船山公園内
TEL0823-25-2007

雑貨・文具で社会に貢献!

「ピースアート」平和に繋げる障がい者アート商品化プロジェクト

実行確約型

【目標金額】50万円

「ピースアート」は障がいのある人たちの芸術活動を支援し、社会参加の促進と経済的自立をサポートするために生まれた広島発のアート商品のブランドネームです。私達が普段あまり接することのない障がい者が制作したアート作品は、その独特な色使いや構図点



など心動かされる点が多くとても魅力的です。このたび、障がいのある方のアート作品を「芸術的価値」の範囲にとどまらず、雑貨・文具などの「デザイン」として商品化。広島市のピースアート商品化事業として製造した「ピースアート商品」をクラウドファンディングサイトを活用して販売。その収益で、障がい者の経済的自立をサポートしたいと思ひます。

《支援コース(1口)》

【8コース】¥900~¥3,200(税込)

《主なリターン》



- B6リングノート4冊+A7リングメモ2冊
- B6リングノート2冊
- A7リングメモ2冊 (ほか)

※各コース詳細およびリターン詳細はサイトでご確認ください。

《支援受付期間》

2月23日(金)~5月23日(水)

《起案者》

ピースアートブランド推進室(ニューアンプコミュニケーションズ)
〒730-0043 広島市中区宮島月見4-17-1301 アールビーズビル2F
TEL0120-932103

NASU HOUSE
リノベーションプロジェクト

実行確約型

【目標金額】100万円

安芸太田町の那須地区は、現在高齢化率100%、4世帯6名が在住する限界集落で住民の平均年齢は、80歳を超えます。このままでは村の消滅も考えられ、そういった現状を知った時、何かできないか?といった強い気持ちで起こりました。そこで、地域の一軒を所有者の方から借



り、NASU HOUSEと名付け昨年度から、体験民泊を受け入れてきました。関係人口を増やすことで、地域の重要性が再認識され、地域を守ることに繋がると考えています。今後さらに、NASU HOUSEの活用を増やすためには、継続的に民泊、農泊などを実施していくことが重要です。その拠点となる現在のNASU HOUSEのリノベーションは必要不可欠で、今回のリノベーションに掛かる経費をクラウドファンディングで捻出したいと考えています。

《支援コース(1口)》

【6コース】¥2,000~¥30,000(税込)

《主なリターン》



- サンクスレター
- 安芸太田町農たんじゅんファーム農産物 2000円相当
- 安芸太田町特産物 満足セット
- NASU HOUSE 1泊2日宿泊体験コース (ほか)

※各コース詳細およびリターン詳細はサイトでご確認ください。

《支援受付期間》

2月23日(金)~3月22日(木)

《起案者》

一般社団法人ソーシャルデザインマネジメント
〒731-3845 広島県山形郡安芸太田町那須611
TEL070-4409-5276

県立広島大学
レモンのレシピで県民の健康づくりを応援したい

目標達成型

【目標金額】60万円

県立広島大学は、広島・庄原・三原の3つのキャンパスでレモンと健康について研究を進めています。広島では管理栄養士を目指す学生たちが「レモンを使ったレシピ」を考案、庄原ではレモンに含まれる機能性成分の研究、三原ではカルシウム配合のレモン飲料が骨密度低下



を抑制する研究などを行っています。「レモンを使ったレシピ」は、一昨年9月にボッカサポロ社と開催した産学連携イベント「レモン大学」で発表しましたが、その後、活用されずに眠っていました。そこで、そのレシピと、レモンとカルシウムの相性の良さなどを紹介する「レモンのレシピ新聞」を作成し、皆さまにお配りして、骨粗しょう症でお悩みの女性や高齢者、子供の健康づくりに役立てていただきたいと思います。

《支援コース(1口)》

【1コース】¥2,000(税込)

《主なリターン》



- レモンのレシピ新聞、ラッシーシェイカー、大崎上島産レモン4~5個

※各コース詳細およびリターン詳細はサイトでご確認ください。

《支援受付期間》

2月23日(金)~5月23日(水)

《起案者》

公立大学法人 県立広島大学
〒734-8558 広島市南区宇品東一丁目1-71
TEL082-251-9727

クラウドファンディングとは?

クラウドファンディングとは英語のCROWD(群衆)とFUNDING(資金調達)をつなげた造語です。クラウドファンディングサイトはインターネット上で夢をかなえたい「プロジェクト起案者」と「それを応援したい人々」をサイト上でマッチングさせる仕組みです。



1 プロジェクトを検討・発案・申請・審査通過



2 プロジェクトのサイトを作る。プロジェクトの目的、目標金額、支援に対するリターンなどを提出。プロジェクトサイト提出期間中は情報を発信して広く支援者を募る。



6 プロジェクト成立

プロジェクトを実施する(サイト提出開始終了後、6か月以内)



クラウドファンディング



3 プロジェクトを見て、支援を検討。
4 リターンを閲覧しながら支援金額を決定。
※会員登録が必要



5 支援を決め、クレジットカード決済する。

7 選んだコースのリターンが受けられる。



(VISA/Masterのみ)

8 支払い完了

目標達成型

プロジェクトに対する支援金が目標額に達した場合のみ、プロジェクトを実行するパターン。

実行確約型

プロジェクトに対する支援金が目標額に達しなくてもプロジェクトを実行するパターン。

(お問い合わせ)中国新聞広島県広島市支店
TEL082-236-2211(平日9:30~17:30)